私のロマンス語遍歴

滝川市医師会
滝川中央病院
宮下　恵一

昔から英語は好きで、『サマセット・モーム』など読んでいた。しかしこれも大学受験の影響であったかもしれない。もっぱら読書であり、ヒアリング、スピーキングはしなかった。

そんな折、JRで滝川から新千歳空港へ向かっていた時、新札幌で[PRINTEMPS]なる看板を見つけた。英語ではなさそうだし、何だろうと思っていたが、後日フランス語で「春」という意味だと分かった。心の中に何か温かいものが流れていった。分からないことが分かるのは良いことだ。この時点でフランス語を勉強することに決めた。

以降、約10年、フランス語検定をベースに勉強していき、なんとか３級まで到達した。しかし文法を中心にした筆記、読解はできたが、ヒアリング、スピーキングは思ったより進歩しなかった。語学ってコミュニケーションできることが大切なのでは？
聞き取れず、話せず、これでは勉強している意味があるのか？　これでフランス語の勉強は頓挫した。フランス語ではリエゾン、アンシェヌマンがあって単語を続けて読むこと、語末の子音は発音しないことが聞き取れない主因と思われた。読んでいても音が１対１に対応しないのである。中学校で英語を初めて習ったとき、先生が「アン　アップル」を「アナポー」と読んでいたことが思い出された。

このような状況だったので、その後10年間語学は勉強しなかった。

しかし他に単音節言語で、もう少し１語１語はっきりわかるロマンス語はないのか、という気持ちがあった。

ロマンス語とは、フランス語、スペイン語、イタリア語等をいうが、世界史で習ったように、王様、王妃、王女様等の交流があったことからもこの３ヵ国の言語は類似点が多い。その中でもフランス語が一番複雑で、かつ洗練されているというのが私見である。ロマンス語を勉強する際、フランス語のみを極めようという立場と、３ヵ国語を比較対照して学ぼうという立場があるという。私はこの後者の立場をとろうと思い、ロマンス語の勉強を思い立った。それも日本語のように単音節で区切られて発音する言語を探した。

世界で話す人が多いことからスペイン語、ついでイタリア語をその後数年ずつ勉強した。検定をベースにしたがスペイン語は４級、イタリア語は５級でストップした。文法は類似点が多く、比較文法的に面白かった。読解は何とかいくのだが、これもヒアリングで挫折、最近の語学検定は筆記プラス聞き取りの合計点ではなく、それぞれが合格域でないと合格させてくれないのである。辞書を引き引きなら何とか文章のあらましは分かるのだが…。しかしコミュニケーションができなければ語学の意味がない。どうも私には語学に大切な耳と口の能力がないと思った。

しかし最近になり、メグレ警視ものの字幕DVDを観ていたら、メグレ警視の話すフランス語が聞き取れる気がして、懲りずにまたフランス語を勉強し始めた。20年ぶりである。文法、単語は結構覚えているものである。今度は単語の集まりで構成された文章を中心に覚えていこうと思う。私は暗記が嫌いであるが、語学にはどうしても暗記、それも短文暗記が欠かせないことに気付いた。また文法にこだわらず耳で聞く勉強を中心に進めることにした。古い話だが、欧米人は語学を学ぶときカセットテープを買い、日本人は文法書を買うという。欧米人の方が語学の進歩は早いという。私も実際に耳で聞き、口で短文を声に出して読むことにした。

こんな、他人から見たら当たり前のようなことに今ごろ気付いた。こうしてまた再再チャレンジが続いている。まさに人生である。C’est la vie.（せらびー）「人生とはそういうものだ」。